

5-3			
主題	人材確保・定着に向けた取り組みの中で EPA 介護福祉士の活躍と既存職員の相乗効果について		
副題	国籍にとらわれない質の高いケアを目指して		
キーワード1	EPA	キーワード2	人材確保
		研究(実践)期間	38ヶ月
法人名	社会福祉法人 ウエルガーデン		
事業所名	特別養護老人ホーム ウエルガーデン伊興園		
発表者(職種)	持田勇人(介護職員)、ファトマニタ・ロフマダニ(介護職員)		
共同研究(実践)者	マリスタムジョコ(介護職員)		
電 話	03-5838-1500	FAX	03-5838-1501
今回発表の 事業所や サービスの 紹介	ウエルガーデン伊興園は足立区伊興に平成 13 年 5 月に開設した従来型特別 養護老人ホームです。特別養護老人ホーム130名、短期入所生活介護26名、 通所介護(認知症対応型含む)、訪問介護、居宅介護支援援助事業所、地域包括 支援センターが併設している施設です。		

《1. 研究(実践)前の状況と課題》

潜在介護福祉士や介護職員初任者研修修了者など多くの有資格者が介護就労していない状況である。介護福祉士養成校でも生徒数の減少で担い手が減り、全国の介護事業所の多くは人材不足となっている。さらに2025年には団塊世代が後期高齢者となり、需要と供給が追いつかない中、更に人材不足が進む。

人材が集まらず、危機的状況になっている施設が多い中、当施設では新人職員の確保・定着はできている。中堅職員は結婚や育児、転職などで離職する職員もいるため、職員確保・職員定着ができ、モチベーション高く、長く働ける人材をどのように集める事ができるかも課題であった。

経済連携協定(以下、EPA)は介護人材不足への対応を目的としてはいないが当施設では以前より永住権を持つ外国人介護職員の活躍の実績があり、EPA 介護福祉士の雇用を人材確保・定着に繋がると検討した。

《2. 研究(実践)の目的ならびに仮説》

【研究の目的】

国籍を問わず、モチベーションの高い人材を確保することで質の高いケア・職員定着に繋げる。

【研究の仮説】

優秀な人材を確保する手段として、外国人で介護福祉士の資格を取得している EPA 介護福祉士を採用する。EPA 介護福祉士に長く働いてもらう事により、人材確保・定着だけではなく、利用者との良好な関係を築き、質の高いサービス提供に繋げる。

また、以前から働いている永住権を持つ外国人介護職員・日本人介護職員の意識向上も図ることができる。

《3. 具体的な取り組みの内容》

本研究以前から当施設では、永住権を持つ外国人介護職員を雇用してきた。勤務態度も真面目で、利用者、職員からの評判も良かった。そのような経緯もあり、EPA 介護福祉士

の採用に踏み切ることにした。採用後は、長く働ける環境づくりが必要となる。

【EPA 介護福祉士入職者】

2013 年 6 月 男性 1 名、女性 1 名

2016 年 3 月 女性 1 名

2016 年 5 月 男性 1 名、女性 1 名

【具体的な取り組み】

①EPA 介護福祉士入職前、既存職員意識調査（2013 年 5 月実施）

②個別面談

孤独感・言語等ストレスを抱え込まない配慮。

③礼拝できる場所、時間

礼拝が出来る環境の提供。また、既存の職員にも宗教に対する理解を得る。

④業務指導

資格（介護福祉士）を活かす為、他職員同様に指導介護職員を担任制にして、（夜勤を含む）日常業務だけでなく、介護記録やカンファレンス、居室担当も任せる。

⑤休暇（長期休暇）

教会で礼拝を行う為の休暇。異国にいる家族と過ごせる時間の提供（長期休暇）。

⑥職員交流

スポーツや懇親会で職員との交流を図る。

⑦職員アンケートの実施

EPA 介護福祉士定着後の職員意識調査。

EPA 介護福祉士職員意識調査。

《4. 取り組みの結果》

EPA 介護福祉士採用前の既存職員意識調査では、宗教・言語・習慣の違い等に不安の声があった。実際に一緒に働くと不安もすぐに解消された。細やかな配慮も見られ、前向きな方が多く、利用者からの評価が高い。既存職員にも好影響を与えている。

異国の家族に会う為に、年 2 回程度の長期休暇をとり、家族との時間を過ごしてもらった。結果、ホームシックを訴える事もない。働きやすさの評判を聞きつけ、今年は新たに 3 名の EPA 介護福祉士が加わった。

《5. 考察、まとめ》

現在は 5 名の EPA 介護福祉士が働いている。EPA 介護福祉士は、モチベーションも高く、他の職員と変わらずに質の高いケアを提供できている。2015 年よりインドネシア人の男性 A さんが介護リーダーの役職に付き、職員をまとめる存在にもなっている。EPA 介護福祉士は介護におけるチームケアには、まったく問題はなく、キャリアアップも可能である。

今後も日本人に限らず、EPA 介護福祉士からも選ばれる職場を目指していき、何より利用者が生き生きと過ごされる環境に繋げていく。

《6. 倫理的配慮に関する事項》

なお、本研究(実践)発表を行うにあたり、EPA 介護福祉士を含む当施設職員に文書にて確認をし、本発表以外では使用しないこと、それにより不利益を被ることはないことを説明し、回答をもって同意を得たこととした。

《7. 参考文献》

「介護現場の外国人労働者～日本のケア現場はどう変わるのか～」(2010 年) 塚田典子 明石書店

《8. 提案と発信》

一昔前までは、介護は日本人が行なうような習慣があったが、時代と共に介護のグローバル化が推し進められている。EPA 介護福祉士は、日本人と変わらない質の高い介護が出来、言葉遣いやマナーにおいても、日本人が見習うところも多い。

今後も EPA 制度を利用して質の高い介護福祉士が広がり、日本人介護福祉士との相乗効果で、介護業界全体の底上げにつながる可能性があると考え